

普及活動情勢報告（令和3年9月分）

高吾農業改良普及所

イチゴ苗の炭酸ガスくん蒸処理でハダニゼロを目指す！



炭酸ガスくん蒸処理の様子

JA高知県佐川支所苺部会では、本ぼへのハダニ類の持ち込みをゼロにするため、イチゴ定植前に苗を炭酸ガスでくん蒸しています。炭酸ガスくん蒸処理は化学農薬だけに頼らないIPM技術として県外で使用されており、高知県ではJA高知県佐川支所苺部会が令和元年に初めて導入をしています。

また、イチゴの花芽分化を確認し炭酸ガスくん蒸処理実施後すぐに定植を行うため普及所、JA、苺部会農家がスムーズに動けるように3者が連携を取り合っています。

本ぼへの定植後は天敵の放飼や防虫ネット等の環境保全型農業の取り組みについても普及所はサポートしていきます。

水稻採種ほの審査を行いました。



9月15日、佐川採種組合のほ場審査を行いました。組合では4戸でサイワイモチ及びにこまるを148.5a（14筆）栽培しています。今年は分けつ期や出穂期に雨天等による日照不足が続きましたが、適正な病虫害防除等管理に努め、いもち病等の病害や害虫による被害は微発生に止まっており、すべてのほ場は合格となりました。

普及所は収穫期まではほ場巡回を行い、優良種子の生産について助言指導していきます。

新高梨、出荷へ向けて！



9月15日、JA佐川支所果樹部会で梨の目慣らし会が行われ、生産者6名の参加がありました。

選果選別基準を確認した後、果実分析を行い、今年の果実の大きさや糖度を測定しました。

普及所からは、今年の生育概況と収穫目安である積算温度について説明を行いました。今年は曇雨天が続く厳しい状況でしたが、瑞々しい新高梨に仕上がっています。

今後も普及所は、新高梨の生産安定に向けた取組を支援します。

出荷場のGAP実施状況を点検しました！



9月8日、JAの7集出荷場で2ヶ月に1回のGAP点検を行いました。
異物混入や腐敗事故、また作業中の事故のリスクを減らすことを目的に、集出荷場を巡回してGAPの実施状況を確認し、改善点を指摘しています。今回の巡回では、出荷場作業員の手指のアルコール消毒、マスクと手袋の着用などのコロナ対策が行われているかを確認しました。また、コロナ対策をより徹底するために、手指の洗浄方法についての資料を今後配布することを決定しました。
普及所では今後も、出荷場担当者と相談しながらより良い出荷場へ近づけるよう支援を行っていきます。

9月17日(金)
締め切り